

地域包括ケアシステム実現に向けて

2015年

内閣府 規制改革会議
公開ディスカッション

病院前の景色を変える！
(塩崎恭久 厚生労働大臣)

患者のための
薬局ビジョン

立地から機能
対物から対人
バラバラから1つ



3月12日

5月22日

10月23日

健康サポート機能
(健康サポート薬局)

高度薬学管理機能
(専門医療機関連携薬局)

「医薬品提供計画」が必要

なかなか進展が見られない

規制改革会議公開ディスカッション以後の潮流

(平成27年)

薬剤師業務は
対物から対人へ

患者のための
薬局ビジョン

(平成27年)

改正医薬品
医療機器等法

(令和2年)

薬局・薬剤師の
概念を再定義

薬剤師法
19条の解釈

厚生労働省
0402通知

(平成31年)

非薬剤師の
育成と活用

調剤報酬の
改定

調剤料の
見直し

(平成30年～)

対人業務の
評価

(平成30年～)

事業モデル
の見直し

残された
課題

情報共有基盤
の整備

調剤報酬制度の
抜本的改革

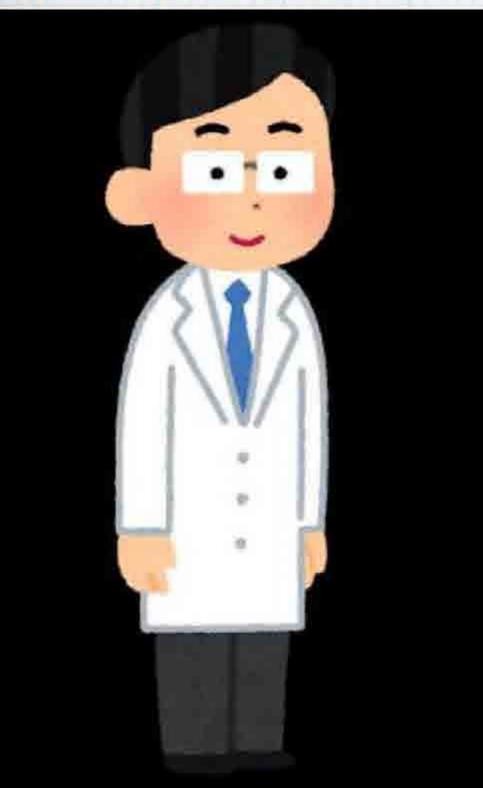
対物業務の
さらなる効率化

医薬協業における関係

医師

薬剤師

患者



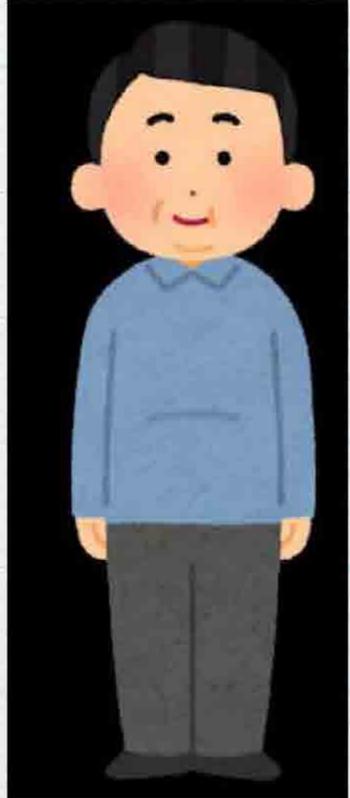
診察
↓
診断
↓
処方



調剤
↓
フォロー
↓
アセスメント



医師の診察と処方
↓
薬剤師によるフォロー
↓
次回診察時に反映



新しい治療戦略

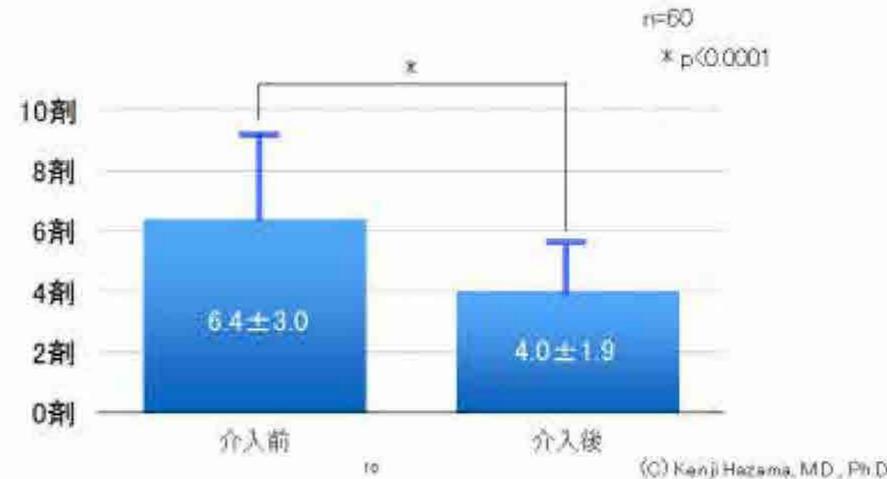
専門性の発揮
→「対人」業務

処方内容の最適化

在宅業務で医師と薬剤師の連携による評価

医師と連携して薬剤師が在宅訪問を行うことで、投薬数や薬剤費が減少。

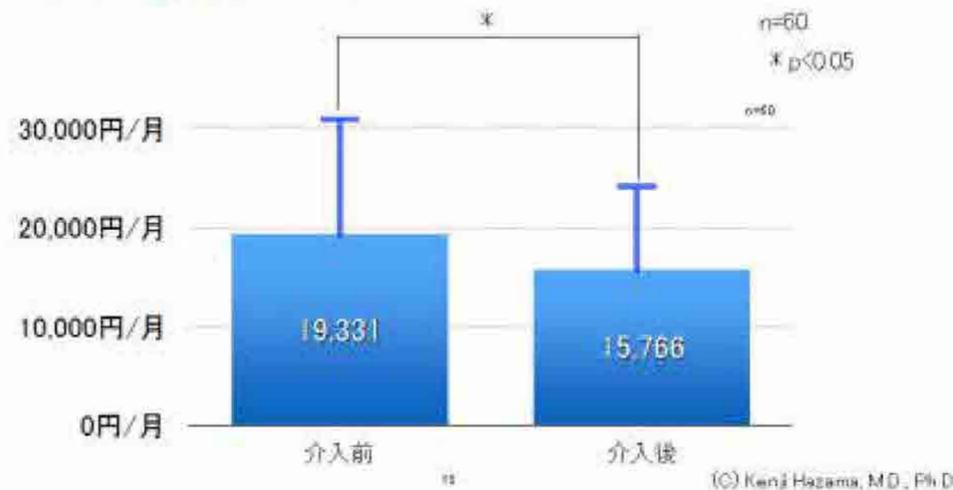
1人あたりの投薬数の変化



医師の訪問診療に薬剤師が同行した後、次回医師の訪問診療の前に薬剤師が単独で訪問して、薬学的に患者の状態を確認し、そこで得た情報を医師にフィードバックした結果

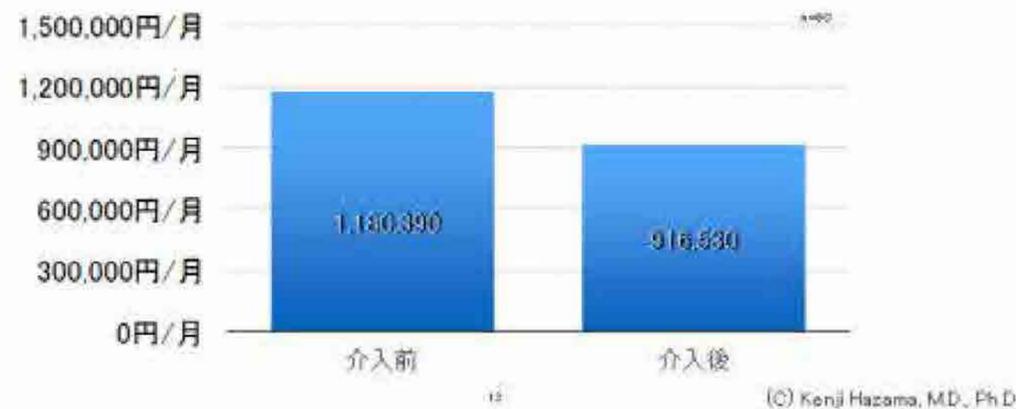
- 介護付き有料老人ホームの患者
対象 60名 (男性13名、女性47名)
平均年齢 87.1 ± 7.5歳

1人あたりの薬剤費の変化



施設全体の薬剤費の変化

60名で263,860円/月・施設の薬剤料減少



※平成26年度厚生労働科学研究費補助金「薬剤師が担うチーム医療と地域医療の調査とアウトカムの評価研究」シンポジウムより「薬局薬剤師が取り組むチーム医療～介護施設における共同薬物治療管理～(ファルメディコ株式会社 狭間研至)」

薬剤師による

F: フォロー

A: アセスメント

F: フィードバック



投薬数の減少

薬剤費の削減



薬剤総合評価

調整加算

として反映

(平成28年)

令和4年度 診療報酬改定

(令和3年12月22日)

リフィル処方箋(反復利用できる処方箋)の導入・活用促進による効率化 ▲0.10%

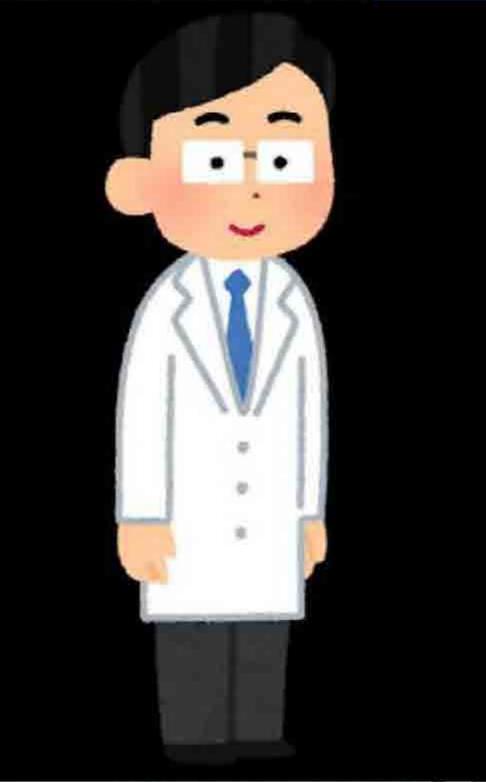
症状が安定している患者について、医師の処方により、**医療機関に行かずとも、医師及び薬剤師の適切な連携の下、一定期間内に処方箋を反復利用できる**、分割調剤とは異なる実効的な方策を導入することにより、再診の効率化につなげ、その効果について検証を行う

リフィル処方箋では…

医師

薬剤師

患者



診察
診断
処方

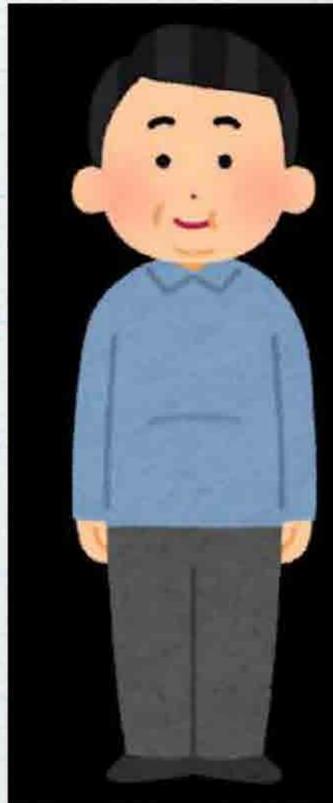


③ フィードバック

② 調剤
① フォロー
リフィル
アセスメント



医師の診察と処方
かかりつけ薬剤師
かかりつけ医と連携



働き方改革の実現

チーム医療の実践
→ かかりつけ薬剤師

効率的・効果的医療

医薬協業が地域医療を変える

- * 中小の薬局・薬剤師も対物中心から対人中心へシフト
- * 患者の薬物治療の質的向上：残薬・ポリファーマシーの改善
- * 医師のタスク・シフト/シェアが進む：医師の働き方改革推進

リフィル処方箋と共に**医薬品の適正使用が進む**